

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300154		
法人名	株式会社サン・ドリームナゴヤ		
事業所名	グループホーム 六じょう家		
所在地	瀬戸市西茨町28番地		
自己評価作成日	令和5年2月9日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyouvoCd=2392300154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1丁目59番地の1の902
訪問調査日	令和5年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人らしさを尊重し、感情豊かに生活してもらえるように働きかけながら、自立支援の介護を行っています。
 ・コロナ禍で外部との交流が制限されていますが、例年のイベントは中止することなく、内部で楽しめるように工夫して行っています。
 ・コロナ等の感染症が施設内に侵入、まん延しないように、職員の定期的なPCR検査や、入居者も手洗い、うがい、マスクの着用等の基本的な感染予防を行い、消毒、換気、清掃を徹底しています。栄養、睡眠をよくとり、よく笑って免疫力の増加にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の方とは、土産物をもったり、配ったりする良好な関係を築いている。
 ・介護度が高い人、他の施設が受け入れに難色を示した人等すべての人を受け入れており、市の職員とも気軽に相談できる関係になっている。
 ・「褒める」「年寄り扱いしない」「服装に気を付ける」などを徹底し、利用者がいつまでも社会の一員であることが出来るように支援している。
 ・併設する有料老人ホームの施設長が看護師のため、医療対応、緊急時対応等安心できる。非常勤の看護師も入れると、実質9名の利用者に2名の看護師が対応している。経験を積んだ看護師が常に控えているので、看取りに関しても職員は安心して対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	喜怒哀楽愛憎の感情表現を大切に、自分らしく生活してもらえるように、常々話し合っその都度対応しています。	理念に「喜怒哀楽愛憎」六つの感情を大切にする介護を掲げ、管理者、職員は利用者の感情や意向を尊重するよう絶えず心がけ理念の実現に努めている。利用者が嬉しい時は喜び、笑い、悲しい時は怒り悲しむなど、あるがままに受け入れる介護を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年も新型コロナウイルス禍でまん延防止の観点から、春、秋に桜や紅葉見物に地域へは出かけましたが、ドライブにとどめ、人と接触することは避けました。	ホームと利用者の一部の方が町内会に加入しており、お土産のやり取り、おすそ分けなど日常的に交流している。認知症カフェの毎週開催や地域の「安全確認」見回り、避難訓練、草取りなども参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、地域のちょっと聞きたいと見学に来る方や少し見せてという方には、玄関のスペースで検温、消毒後にお困りごとや認知症についてのご相談を受けました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料を配布し、FAXや電話でご意見を頂き、必要な改善はその都度行っています。・面会方法の意見あり、テレビ電話を活用するようになりました。	コロナ禍のため今年度も年6回書面での開催となった。資料配布、意見交換先は瀬戸市、社協、組長、地域住民、利用者家族などで市からは毎回「身体拘束」についての見解が提示され、職員会議で検討してサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年も新型コロナウイルス感染予防のため、隔月の運営推進会議の資料を配布し、電話やメールでご意見を頂きました。コロナの感染者が出た時などは、県や市町村の担当者に相談、助言頂き対応しました。	介護保険の更新など殆どがメールのやりとりで、研修もZoomで行われ直接会う機会は減少した。しかし、相談などは絶えず電話などで行い良好な関係を築いている。特にコロナへの対応については、頻りに連絡を取り合った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で定期的に身体拘束廃止について勉強しながら、運営推進会議でも定期的に身体拘束廃止委員会を行って相談、調整、合意、決定をしています。	毎月定期的に行う職員研修で身体拘束について理解を深めている、特に新聞などで問題になっている事例をタイムリーに取り上げて検討している。運営推進委員の毎回の議題である身体拘束について具体的内容と弊害について市より書面が届き職員だけでなく家族などにも理解が深まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議や研修会で高齢者虐待防止関連法について勉強しながら、日頃から虐待的行為の見過ごしはないか注意して防止に努めています。アンダーコントロールも学習しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な機会ですべて学んでいますが、必要な時に活用できるまできちんと、準備できるようにしておきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接の時より、理解、納得頂けるように行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、目安箱などで意見を求め、必要に応じて改善を行っています。	玄関に「目安箱」を設置し意見などを求めているが、家族は面会時に直接、管理者、職員に申し出ている。コロナ禍で家族会は開催されていないが、面会時やメール及び電話などで意見、要望を聞き取り運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を求め、話し合っ無理解のない状況で実行しています。	管理者は職員が意見を言いやすい環境を作っている。会議や申し送り時、また日頃より意見を提案を聞いて、出来るものについては運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の健康や精神的な安定に注意して、いい仕事をしてもらえるように、職場環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の責任者とよく話し合い各自の能力に合わせて働きながらのトレーニングを行っています。月に1度の研修会では今最も必要な勉強も行っています。各自の状況を見て職場外の研修も今後すすめていきたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防のため、今年は特に交流することは、できませんでした。事業者部会には参加して交流しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を聞いて、まず安心して頂けるような関係作りを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初によく話を聞いて、様々な不安や疑問に対応しています。ケアプランにも反映させています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聞いて、一番良いと思われる提案をして対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	第3の家族として共同生活をし、ここで会ったのも何かの縁とお互い助け合ったり、心配したりする関係を築いてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、本人、家族と三位一体と認識しています。本人を支えるためには、職員と家族の協力は不可欠のため、連絡を取り合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年も新型コロナウイルス感染予防のため制限がありましたが、馴染みの地域での生活は継続しているため、友人、知人の訪問はその時々に対応で歓迎しています。外出して思い出の場所を見ることが時々行っています。	コロナ禍のため面会は短時間に決められ、時々友人知人が近所の買い物ついでに寄られ、会話を楽しんでいる、お土産にお菓子も頂くことがある。桜、藤、紅葉見物にホームの車で行き、途中、馴染みの場所(市役所、公園など)を車窓から説明して、なじみの場との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	昔のご近所付き合いのように、程よい礼儀と 節度を持ってお付き合いしてもらえるように 支援しています。あいさつやお礼、お詫びな どの言葉を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご近所の方には、時々スーパーや外出先で 会うことがあるので、その都度ご家族様のご 様子も聞いています。相談があればいつで も大歓迎です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	自分の意見を言える方には、いろんな場面 で意見を聞きながら意向を把握しています。 そうでない方は日頃の生活の中で、その方 の好む事や物を把握しています。	利用者の介護度が上がり耳の遠い方、思いや 希望が表現出来ない方が多い。入居時の情報 や日頃のやり取り、表情、行動、家族からの情 報などから本人の意向に寄り添った介護に努め ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時から生活歴については本人や家族や 関係者から詳しく聞き取りを行っています。 普段の話題にも取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の生活でその人らしい生活リズムで暮 らしてもらっています。心身状態や有する能 力も日によって変化するので、その日のその 方に合わせて介助を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心になって、本人や家 族や担当職員や管理者とよく話して、無理の ない程よい計画を作成しています。	モニタリングは必要時や3か月ごとに行ってい る。ケアマネージャーが中心となり管理者、職員、 家族などが検討の上、6ヶ月毎に利用者の身体 状況に応じて介護計画を見直している。介護計 画について家族の要望は少なく、安全に楽しく 暮らすことへの希望がほとんどを占めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の記録や全体会議での話し合いなど で、担当職員の気づきや提案を取り入れて、 ケアや計画の改善を行い、情報の共有に努 めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在行っているサービス以外の突飛な要望は少なく、もしそのようなニーズがあれば、対応したいと思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も新型コロナウイルス感染予防のため制限はありましたが、季節に応じて、地域の名所で桜や紅葉を見物しました。定期的に地域の図書館で雑誌や本を借りて活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の在宅往診専門医の他に、家族や本人の意向に沿った医師の受診を行っています。看護師は必要な情報を提供して診療の介助をしています。	利用者全員が24時間体制の在宅往診専門医をかかりつけ医にしており、月二回の往診と急変時の対応をお願いしている。歯科はホームの目の前にあり通院している。看護師は医師から利用者の医療情報を把握して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師がいるので、毎日小さな変化でも相談や報告を受け、体調が悪化しないように健康管理を行っています。また治療の内容と現状を家族に伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が付き添って入院先の病院と情報交換を行って適切な治療を受けられるように援助しています。入院中や退院までの間も病院のケースワーカーと情報交換を行い、受け入れ準備を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	徐々に重度化し、終末を迎える場合に、医師、看護師、家族、本人、管理者立ち合いの下、終末期に向けた方針を説明し、意向を尋ねています。	入居時に重度化した場合について説明しているが、終末期を迎える場合も医師、看護師、管理者が再三家族と話し合い意向を確認している。ホームは看取りの経験を数人しており、看護師もいる。また同一法人建物内の館長(看護師)の支援もあり職員は心強い状況である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会で救急救命などの講習会を開き、勉強しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を繰り返し行って身につけています。福祉避難所になっているので、今後も地域と協力体制を築く必要があると思います。	ハザードマップ上ではホームは水害安全地域で、火災を想定した避難訓練を年2回実施している。介護度の高い利用者が殆どで夜間の移動は大変である。近隣との関係は良好であるが高齢者が多く協力依頼は難しい。自家発電機も購入しており備蓄も準備している。	いざという時のために自家発電装置の試運転をされたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	このことは日頃から特に心がけて行っています	職員は利用者の人格を尊重し、誇り、プライドを傷つけない言葉使いをするよう日頃から心がけている。入浴、トイレ介助などはプライバシー、羞恥心に注意して行っている。ホームページでは利用者の顔をかくして掲載しており、写真をホーム外へ提供するときは、家族から同意を得て行っている。	利用者家族への便りに写真を使用しているが、中には利用者の集合写真もある。利用者のプライバシー保護のため、このような写真の使用についても家族の了承の下で行いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さいことからなるべく自己決定できるように促しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活のリズムを守るだけでなく、その日の変化をよく観察して、その人のペースに合わせた支援を行っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や場面にあったおしゃれな服や身だしなみで、素敵で格好よく見えるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の食事作りにはかなりの能力が必要になるので、できませんが、お彼岸のおはぎの昼食作りなどは一緒に行き食べています。飲み込みをしっかり出来るような体操や歌を毎日行い、美味しく楽しく安全に食べることを支援しています。	利用者の殆どは介護度が高く一緒に食事作りはできないが、簡単な、おやつ(おはぎ、お好み焼き)等や、お茶出し、片付け等できる範囲で行っている。正月、敬老の日などの、特別日は工夫した料理を提供して喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取量は記録し、体調の変化に対応しています。定期的な血液検査で栄養状態も把握し、不足している栄養を補うように支援しています。どうしても摂取量が減少してくる場合は早めに様々な工夫をして対応しています。(体重測定1回/月)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りで、出来ない方は部分的に介助したり、全介助したりして、口腔内の清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意や尿意のある方やない方、立てる方や立てない方、トイレに行くことが好きな方や嫌いな方など様々な方に合わせて、なるべく快適に汚れが少ない状態で支援しています。	介護度が高い方が多いが、排泄チェック表や、そわそわした雰囲気などから、できるだけトイレへ誘導出来るように努めている。利用者ごとのサインは職員間で話し合い共有化している。また、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分を多くとることや、運動、食事には気を付けています。排便チェック表も記録し、排便がない日が長く続かないように対応しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好きな方がそんなにいないので、どちらかというところが入りましよう誘って入浴して頂いています。	原則として週2回(月木・火金)としているが、利用者の体調等考慮して、曜日を変更したり、清拭などへ変更したりして、柔軟に対応している。入浴が嫌いな方が多いが無理強いはず、着替えのタイミング、声がけなど誘導に工夫して入浴後はサッパリしたと喜んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん自分のペースで休息されたり、睡眠されるので、なるべく無理に流れを変えず、自然に対応しています。食べるときに眠そうな時は危ないので、やめてもらって眠気が覚めたら食べて頂くようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心になって服薬については説明しています。往診時に変化があった時は、その都度説明をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎週末はカラオケ喫茶に参加し、毎月何かしらのイベントがあり、出かけたり、自分にあった形で参加頂いています。毎日のオヤツの他に、自分なりに欲しい物(ヨーグルト等)を預かり、食べすぎないようにお渡ししています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年も新型コロナウイルス感染予防のため制限はありましたが、日光浴を兼ねて天気のいい日は庭に出たり、季節に応じた外出をおこないました。出られない方は、室内でひなたぼっこをして頂きました。	コロナ禍のため日常的には日光浴を兼ねて庭に出たり、庭でおやつを食べる等が主で月に数回は近隣や公園へ散歩に出かけられるように支援している。近隣の喫茶店訪問は現在自粛しているが、季節毎にホームの車で紅葉、桜見物などに出かけており喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今年も新型コロナウイルス感染予防のため買い物で近くのスーパーに行くことはできなかったが、夏祭りなどで疑似買い物などをして頂きました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は毎年大切な方に一緒に手伝って書いてもらいました。家族からも年賀状が届き嬉しそうでした。他にも手紙を書かれれば、郵便で出せるように支援しています。電話で話したいことがあればかわって話してもらいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて花を飾ったり、イベントの余韻を感じる物を置いたり、壁に写真を貼って自由に見たり、よく体操で歌う歌の歌詞を貼ったりしています。適切な温度や湿度をチェックするために、温度、湿度計もつけて、調整しています。	入り口には、内裏雑が飾ってあり季節感を感じさせられる。リビングには大きな窓があり自然光を取り入れ明るく、温度、湿度も適切に調節されている。壁には敬老会等で撮った一人ひとりの表情豊かな写真が貼ってあり、利用者が見て思い出して喜んでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた廊下にソファや椅子を所々に配置し、仲間同士で座れるようにしています。昼夜問わずお話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自、安全面だけは気をつけて頂き、一緒に自分のお部屋として落ち着く空間になるように、コーディネートしています。馴染みのある物を持って来て下さいます。	居室は利用者の使い慣れた、タンス、収納ケース、テレビなどが置かれ、仏壇持参の方もいる。衣類は家族の協力で季節毎に入れ替えている。部屋の清掃は毎日職員が行い清潔を保ち居心地よく暮らせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂とお部屋の行き来や、洗面所やトイレの使用、入浴時の介助も出来る人はある程度お任せしています。途中やその後に異常はないか確認しています。安全性を考えて、手すりや所々に座れる椅子等を配置して、やりやすくしています。		